

令和4年度保健科学部 臨床検査学科 4学年 シラバス

英語Ⅲ	・・・P1～
チーム医療Ⅱ（演習）	・・・P3～
総合演習	・・・P5～
臨床実習	・・・P6～
卒業研究	・・・P7～
臨床細胞診断学	・・・P8～
臨床細胞診断学実習	・・・P10～

科目名	英語Ⅲ【保健4】	科目名(英語)	英語Ⅲ
区分	外国語科目	単位数	1.0
担当責任者	安田尚子		
開講年次	4	教室	ICT教室
必修/選択	選択	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>英語IA,Bおよび英語ⅡA,Bで習得した知識・スキルに基づいて、医療現場で必要となる英語の総合的なコミュニケーション能力の向上を目指す。グループワークの課題とプレゼンテーションを通して特にライティングとスピーキングの能力を高める。ライティングでは、正確で論理的な文およびパラグラフとスライドショーに用いられる文体(箇条書き等)を習得し、相手に意思を伝えるための効果的な表現方法を学ぶ。また、スライドショーを用いたプレゼンテーションを通じて自らが選択したテーマについて発表し、質疑応答や討論に必要なスピーキングスキルを養う。合わせて発声、ジェスチャー、効果的な視覚情報の使用、著作権の尊重などプレゼンテーションに不可欠な知識とスキルを身につける。地元の医療に貢献できるテーマなどを選び、グループワークでのプロジェクトベース型で授業を行う。この授業は4学科合同で行う。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学術英語で使用される表現や文体を選び、論理的なパラグラフを書くことができる。 2. スライドショーに必要な英語の箇条書きの方法と文章省略のルールを理解し、書くことができる。 3. 信憑性のある情報を検索・選択し、正しい方法で引用することができる。 4. 話し言葉と書き言葉の違いを理解し、スライドに基づいて自分の言葉で発表することができる。 5. プレゼンテーションの質疑応答を効果的に行うことができる。 6. プレゼンテーションに必要な発声方法、ジェスチャー、視線などを理解し、自信をもって相手に伝わりやすい発表ができる。 			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		Introduction: Syllabus Ice break activities	安田尚子、久保田 恵佑
第2回		Academic English vs. casual English	安田尚子、久保田 恵佑
第3回		Structure of a presentation: Introduction	安田尚子、久保田 恵佑
第4回		Structure of a presentation: Body	安田尚子、久保田 恵佑
第5回		Structure of a presentation: Conclusion and references	安田尚子、久保田 恵佑
第6回		Avoid plagiarism: How to find and cite references	安田尚子、久保田 恵佑
第7回		Effective slideshow: How to use Powerpoint, find good images and charts	安田尚子、久保田 恵佑
第8回		How to use bullet points	安田尚子、久保田 恵佑
第9回		Make a slideshow: Explanation	安田尚子、久保田 恵佑
第10回		Make a slideshow: Comparison slideshow	安田尚子、久保田 恵佑
第11回		Speaking skills for a presentation	安田尚子、久保田 恵佑
第12回		Nonlinguistic skills: good gesture and eye contact	安田尚子、久保田 恵佑
第13回		Group work: Get ready for your presentation!	安田尚子、久保田 恵佑
第14回		Presentation 1	安田尚子、久保田 恵佑
第15回		Presentation 2	安田尚子、久保田 恵佑
テキスト	Michael Hood,"Dynamic Presentations"金星堂、2007年、ISBN-978-4-7647-4029-7		

参考書	
成績の評価方法	授業内アクティビティ 20%、ホームワーク 20%、グループワーク 20%、ファイナルプロジェクト 40%
その他	プレゼンテーションは聴衆が誰か、目的が何かによってスタイルや手法が違ってきます。それぞれの目的に合わせた効果的なプレゼンテーションの方法を学んでいきましょう。

科目名	チーム医療Ⅱ（演習）【保健4】	科目名（英語）	チーム医療Ⅱ（演習）
区分	専門基礎	単位数	1.0
担当責任者	矢吹省司		
開講年次	4	教室	
必修／選択	必修	授業形態	演習
受講要件	無し		
授業の概要			
<p>チーム医療の実践について学ぶ。チーム医療Ⅱでは、呈示された症例を元に医学部と看護学部の学生と共に、小グループに分かれて、自分の職種は何が出来るか、何をすべきかについて討論する。そしてグループ毎に発表する。呈示する症例としては、多彩な症状を呈している、または多様な問題を有しているため診断や治療に多職種で関わる必要がある患者とする。</p>			
学習目標			
<p>(1) チーム医療の目標を説明できる。 (2) チームメンバーと円滑なコミュニケーションを図ることができる。 (3) 各医療職種の専門性、役割および責任を説明できる。 (4) 症例に対して各医療職種が取り組むべき問題点を明確化し、自身の役割と仕事を説明できる。 (5) チーム医療の立場から医療を考え、メンバーと連携して問題解決ができる。 (6) Team STEPPS (Team Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety)を体験し、チーム医療の重要性を理解できる。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容（キーワード等）	担当教員
第1回		2学部（看・保）5学科の学生 Team STEPPS (Team Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety)演習	種田憲一郎 （国立保健医療科学院） 保健科学部教員 看護学部教員
第2回		Team STEPPS演習	同上
第3回		Team STEPPS演習	同上
第4回		症例供覧（全グループ同じ症例） 学科毎のディスカッション	保健科学部教員 看護学部教員
第5回		グループ内自己紹介・職種紹介 グループディスカッション	同上
第6回		グループディスカッション	同上
第7回		発表資料作成 発表&質疑応答	同上
第8回		発表&質疑応答	同上
第9回		振り返りと意見交換	同上
第10回		3学部（医・看・保）6学科の学生 症例供覧 グループディスカッション	保健科学部教員 医療人育成・支援センター教員 看護学部教員
第11回		グループディスカッション	同上
第12回		グループディスカッション 発表資料作成	同上
第13回		発表&質疑応答	同上
第14回		発表&質疑応答	同上
第15回		現場のカンファランス見学 （実際の多職種でのカンファランスを見て、学ぶ。大学病院編） 見学後の意見交換	同上
テキスト	特定のテキストはありません。		
参考書	川村治子、『医療安全ワークブック（第4版）』、医学書院、2018		
成績の評価方法	レポート80%、教員によるグループ評価20%		
その他	担当教員 ・保健科学部		

矢吹省司（理学療法学科）
森下慎一郎（理学療法学科）
阿部浩明（理学療法学科）
星真行（理学療法学科）
佐藤聡見（理学療法学科）
五百川和明（作業療法学科）
倉澤茂樹（作業療法学科）
林博史（作業療法学科）
川又寛徳（作業療法学科）
高橋規之（診療放射線科学科）
福田篤志（診療放射線科学科）
佐藤久志（診療放射線科学科）
小川一英（臨床検査学科）
豊川真弘（臨床検査学科）
鈴木英明（臨床検査学科）
高橋一人（臨床検査学科）
・看護学部
和田久美子
菅野久美
大川貴子
片桐和子
古溝陽子
吾妻陽子
・医療人育成・支援センター
大谷晃司
亀岡弥生
安田恵
・国立保健医療科学院
種田憲一

科目名	総合演習（検査）【保健4】	科目名（英語）	総合演習（検査）
区 分	専門科目	単位数	3.0
担当責任者	小川 一英		
開講年次	4	教室	
必修／選択	必修	授業形態	演習
受講要件			
授業の概要			
学習目標			
授業内容(学習項目)			
項目・内容（キーワード等）		担当教員	
テキスト			
参考書			
成績の評価方法			
その他			

科目名	臨床実習（検査）【保健4】	科目名（英語）	臨床実習（検査）
区分	専門科目	単位数	12.0
担当責任者	豊川真弘		
開講年次	4	教室	
必修／選択	必修	授業形態	実習
受講要件			
授業の概要			
<p>臨床実習は、これまで学んできた知識や技術が、実践でどのように生かせるのか、あるいは生かさなければならないのかを、実習を通じて学ぶ。特に学内実習では学習困難な検査機器の取り扱い法、精度管理法、検査情報管理法などの管理運営に必要な実践的知識、患者への対応、対話、態度など医療人として必要なマナー、さらにはチーム医療の一員としての臨床検査技師の役割と責任について学ぶ。具体的には、各臨床検査部門を小グループに分けてローテーションし、実際に検査の現場である医学部附属病院検査部、病理部、輸血・移植免疫部等で実習や見学を行う。さらに東北地域の唯一の地域医療支援病院である大原総合病院における実習では、地域医療において臨床検査技師がどのように貢献できるかを学ぶ。</p>			
学習目標			
<ul style="list-style-type: none"> 臨床検査技師として必要な基本的実践技術を習得する。 検査機器の取り扱い法、精度管理法、検査情報管理法など、検査室の運営に必要な知識を習得する。 医療における臨床検査の重要性を理解する。 患者への対応、対話、態度など医療人として必要なマナーを学ぶ。 医師、看護師、他の医療従事者との連携等、チーム医療の一員としての臨床検査技師の役割と責任を学ぶ。 			
授業内容(学習項目)			
項目・内容（キーワード等）		担当教員	
<p>オリエンテーション 第1週：生化学検査 第2週：尿一般検査 第3週：血液検査・採血 第4週：外注検査・管理業務 第5週：輸血・移植免疫検査 第6週：微生物検査 第7週：感染管理（2日間）、大原総合病院（3日間） 第8週：病理検査 第9週：細胞診検査 第10～12週：臨床生理検査</p>		<p>臨床実習指導者（医大病院、大原総合病院など）・小川一英・宇月美和・豊川真弘・義久精臣・鈴木英明・菅野光俊・高橋一人・堀越裕子・三浦里織・丹野大樹・平田理絵・松田将門・梅澤敬（臨床検査学科）</p>	
テキスト	最新臨床検査学講座「臨床検査臨地実習マニュアル」（医歯薬出版） 臨地実習ノート（医歯薬出版）		
参考書			
成績の評価方法	レポート60%、臨床実習教育評価表40%		
その他			

科目名	卒業研究（検査）【保健4】	科目名（英語）	卒業研究（検査）
区分	専門科目	単位数	5.0
担当責任者			
開講年次	4	教室	
必修／選択	必修	授業形態	実習
受講要件			
授業の概要			
<p>個別にテーマを選択し、講義や実習を通して得た知識や技術を活かし、臨床検査学、基礎医学、臨床医学に関する研究を行う。研究の報告書、研究発表の方法を学ぶ。自主性を重んじながら指導教官の指導によって行われる。研究することの喜びを知り、研究の成果を共有することの重要性を学ぶ。目標を立て、その目標に向かって進む過程から得た経験や知識を得ることから、自分自身に自信を持ち、医療の高度専門化に対応できる臨床検査技師を育成する。</p>			
学習目標			
<p>(1) 多面的視点を持ち、柔軟な思考、的確な判断を導き出すための基礎能力を身につける。 (2) 研究テーマや研究によって得られた結果・考察を相手にわかりやすく伝える能力を身につける。</p>			
授業内容(学習項目)			
項目・内容（キーワード等）		担当教員	
第1週：研究テーマの選定と実施計画の策定 第2週：先行研究の文献調査、実験の準備 第3～9週：研究活動の開始、研究の進捗状況の報告およびディスカッション 第10週：研究の中間まとめ、研究方針の再考 第11～16週：研究活動の実施、研究の進捗状況の報告およびディスカッション 第17～18週：研究報告書作成と指導 第18週：研究発表会		小川一英・宇月美和・豊川真弘・北爪しのぶ・ 義久精臣・鈴木英明・菅野光俊・高橋一人・飯 島順子・堀越裕子・三浦里織・丹野大樹・平田 理絵・松田将門・梅澤敬（臨床検査学科）	
テキスト	なし		
参考書	なし		
成績の評価方法	研究報告書(70%)、研究発表(30%)		
その他			

科目名	臨床細胞診断学【保健4】	科目名(英語)	臨床細胞診断学
区分	専門科目	単位数	9.0
担当責任者	宇月美和		
開講年次	4	教室	
必修/選択	選択	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>「臨床細胞診断学」は細胞検査士養成コース専攻の総括となる科目である。3年次までに習得した解剖学、組織学、病理学、病理検査学、基礎細胞診断学、応用細胞診断学および実践細胞診断学の知識に基づき、細胞検査士として実臨床に対応できる知識の整理をするとともに各疾患の病態と細胞診検査の関連性を理解する。加えて、術中迅速細胞診検査やオンサイトサイトロジーなど、実臨床における細胞診検査の新たな有用性や発展性について学習するとともに、チーム医療の一員として多職種と連携し、がん医療へ貢献できる知識の習得を目標とする。</p>			
学習目標			
<p>婦人科、呼吸器、消化器、乳腺、甲状腺、泌尿・生殖器、体腔、非上皮・神経領域の総合的な講義を通して知識を整理し、細胞検査士として実臨床に対応できる細胞診断学的知識を習得する。</p>			
授業内容(学習項目)			
項目・内容(キーワード等)		担当教員	
<p>(オムニバス方式/全228回)</p> <p>(② 宇月美和/52回) 細胞診と病理(総論)、細胞診各論(婦人科、呼吸器、消化器、泌尿生殖器、乳腺・甲状腺、リンパ節体腔、非上皮・神経系)、まとめ</p> <p>(7 梅澤敬/75回) 細胞診各論(婦人科、消化器、体腔、非上皮・神経系)、細胞診検査技術(標本作製・染色法・免疫染色・応用)、まとめ</p> <p>(9 高橋一人/61回) 細胞診各論(呼吸器、泌尿生殖器、乳腺・甲状腺、リンパ節)、まとめ</p> <p>(105 添田周/1回) 婦人科領域の臨床</p> <p>(195 内海康文/2回) 婦人科領域の病理(子宮頸部)</p> <p>(196 渡邊純/2回) 婦人科領域の病理(子宮体部、子宮付属器)</p> <p>(30 鈴木弘行/1回) 呼吸器領域の臨床</p> <p>(197 五十嵐誠治/2回) 呼吸器・胸腔領域の病理</p> <p>(68 高木忠之/1回) 消化器領域の臨床</p> <p>(198 郡秀一/2回) 消化器領域の病理(消化管「口腔、食道、胃、小腸、大腸」)</p> <p>(199 小田島肇/2回) 消化器領域の病理(肝・胆・膵)</p> <p>(108 小川総一郎/1回) 泌尿・生殖器領域の臨床</p> <p>(200 手塚文明/2回) 泌尿・生殖器領域の病理</p>			

(136 松本佳子/1回) 甲状腺領域の臨床	
(201 廣川満良/2回) 甲状腺領域の病理	
(31 大竹徹/1回) 乳腺領域の臨床	
(117 喜古雄一郎/2回) 乳腺領域の病理	
(① 小川一英/1回) リンパ節の臨床	
(252 佐々木栄作/1回) 体腔領域の臨床	
(35 橋本優子/2回) リンパ節病変の病理	
(202 野沢佳弘/2回) 体腔領域の病理 (主に腹腔)	
(72 箱崎道之/1回) 非上皮領域の臨床	
(203 日下部崇/2回) 非上皮領域の病理	
(103 岩楯兼尚/1回) 神経領域の臨床	
(204 鈴木博義/2回) 神経領域の病理	
(205 吉岡治彦/2回) 非上皮・神経領域の細胞診	
(206 福田利夫/2回) 細胞診検査技術	
(207 坂本穆彦/2回) 細胞診断学のまとめ	
テキスト	細胞診を学ぶ人のために 第6版 (坂本穆彦、医学書院)
参考書	臨床検査技師を目指す学生のための細胞診 (土屋眞一、医療科学社) スタンダード細胞診テキスト 第3版 (水口國雄、医歯薬出版)
成績の評価方法	定期試験80%、小テスト20%
その他	細胞検査士養成コースの履修を希望する学生は、必ず履修すること。

科目名	臨床細胞診断学実習【保健4】	科目名(英語)	臨床細胞診断学実習
区分	専門科目	単位数	8.0
担当責任者	高橋一人		
開講年次	4	教室	
必修/選択	選択	授業形態	実習
受講要件			
授業の概要			
<p>「臨床細胞診断学実習」は細胞検査士養成コース専攻の総括となる科目である。3年次までに習得した解剖学、組織学、病理学、病理検査学、基礎細胞診断学、応用細胞診断学および実践細胞診断学の知識に基づき、「臨床細胞診断学」と並行して細胞検査士として実臨床に対応できるスクリーニング・細胞判定能力および標本作製技術を習得する。加えて、チーム医療の一員として多職種と連携し、がん医療へ貢献できる診断技術の習得を目標とする。</p>			
学習目標			
<p>婦人科、呼吸器、消化器、乳腺、甲状腺、泌尿・生殖器、体腔、非上皮・神経領域の細胞診標本から、スクリーニングによって所定の時間内に異常所見を見つけ出し、病態を推定できる能力を習得する。また、検体の種類や検査目的に応じて、適切な細胞診標本を作製できる技術を習得する。</p>			
授業内容(学習項目)			
項目・内容(キーワード等)		担当教員	
<p>(オムニバス方式/364回)</p> <p>(② 宇月美和/52回) 細胞診と病理(総論)、細胞診標本のスクリーニング、細胞判定(婦人科、呼吸器、消化器、泌尿生殖器、乳腺・甲状腺、リンパ節、体腔、非上皮・神経系)、まとめ</p> <p>(7 梅澤敬/128回) 細胞診標本のスクリーニング、細胞判定(婦人科、消化器、体腔、非上皮・神経系)、細胞診検査技術(標本作製・染色法・免疫染色・応用)、まとめ</p> <p>(9 高橋一人/136回) 細胞診標本のスクリーニング、細胞判定(呼吸器、泌尿生殖器、乳腺・甲状腺、リンパ節)、まとめ</p> <p>(218 石井保吉/3回)、(219 栗田和香子/3回)、(208 村上今日子/3回)、(209 二瓶憲俊/3回)、(217 伊藤仁/3回) 婦人科領域の標本のスクリーニング、細胞判定</p> <p>(210 松木浩子/3回)、(211 佐藤陽子/3回) 呼吸器領域の標本のスクリーニング、細胞判定</p> <p>(198 郡秀一/3回) 食道、胃、小腸、大腸の標本のスクリーニング、細胞判定</p> <p>(255 村越政仁/3回) 肝・胆・膵の標本のスクリーニング、細胞判定</p> <p>(212 渡邊純子/3回) 泌尿器領域の標本のスクリーニング、細胞判定</p> <p>(213 緑川勝彦/3回) 乳腺の標本のスクリーニング、細胞判定</p> <p>(239 山谷幸恵/3回) 甲状腺領域の標本のスクリーニング、細胞判定</p> <p>(256 菅野寿也/3回) リンパ節病変の標本のスクリーニング、細胞判定</p> <p>(257 赤城美代子/3回) 体腔領域の標本のスクリーニング、細胞判定</p>			

(214 古田則行/3回) 非上皮領域の標本のスクリーニング、細胞判定	
(205 吉岡治彦/3回) 神経領域の標本のスクリーニング、細胞判定	
テキスト	細胞診を学ぶ人のために 第6版 (坂本穆彦、医学書院)
参考書	臨床検査技師を目指す学生のための細胞診 (土屋眞一、医療科学社) スタンダード細胞診テキスト 第3版 (水口國雄、医歯薬出版)
成績の評価方法	レポート60%、実技・口頭試問40%
その他	細胞検査士養成コースの履修を希望する学生は、必ず履修すること。